

「育休3ヶ月、2人きりで過ごした1ヶ月」

大分県豊肥振興局 小手川 亮平(農業職)

1. 育児休業体験記

★育児休業取得の経緯

妻が早めの職場復帰を希望していたため取得しました。私自身も自分の子供の世話をすることは当然のことだと思っていましたので、特に抵抗感はありませんでした。

また、近くに育児で頼れる親族がおらず、2人で手分けしなければ世話が物理的に困難という事情もありました。

★育児休業取得の際の職場とのやり取り

妻の妊娠が判明した時点で育休を取得したいという相談を上司にしましたし、自分でも仕事の準備を早い段階から進めていたためスムーズに育休を取得することができたように思います。快く私を送り出してくれた職場の方々には心から感謝しています。

★育児休業中に感じたこと

正直な所、初めは「妻が仕事から帰ってくるまでの仕事」であると甘えた考えであり、妻の指示の元で娘の世話を淡々とこなすだけでした。しかし、妻が入院するという予想もしない事態が起こり、生後4ヶ月の娘と1ヶ月間1対1で過ごすことになり、自分がやらずして誰がやるのか、という状況になりました。期間中は、より良く娘の世話をできるように段取りや方法に頭を巡らせて過ごし、徐々に娘の要求がわかるようになってきたように感じます。

★育児休業から復帰して感じたこと

育児の手伝いではなく主体として動いたことで、妻のして欲しいことや娘のして欲しいことが身を持ってわかるようになりました。妻との関係が以前以上に良好になったと思います。

2. 男性職員へのメッセージ

家庭を運営する上で重要なのは、お互いに「楽しい雰囲気家族仲良く過ごす」ために努力することだと思います。妻や子供と良い関係を作る上で、育児休業は大きく役に立つと思います。

